

【Cコース】

<p><b>C 藤前干潟・名古屋港水族館コース</b> (半 日)</p> <p>本コースでは、ラムサール条約に登録された藤前干潟における野鳥の観察や、名古屋港水族館のバックヤード見学をしていただきます。</p>	<p>定員 40名 (最小催行人数25名)</p> <p>参加費 [5,000円]</p>
--	---

<p>8月4日(木)</p>	<p>12:20 会場出発(バス内で昼食)→13:20 藤前干潟到着→稲永ビジターセンター見学→自由散策→14:30 藤前干潟出発→15:00 名古屋港水族館到着→バックヤード・館内見学→16:30 名古屋港水族館発→17:20 名古屋駅着(解散)</p>
----------------	--

藤前干潟は、たくさんの渡り鳥が飛来する国際的な湿地として、2002年に「ラムサール条約」に登録されました。「ラムサール条約」は特に水鳥の生息地等として国際的に重要な湿地及びそこに生息する動植物の保全を進めることを目的とする国際



条約です。この干潟は、1981年に名古屋市が藤前干潟を一般廃棄物の最終処分場とする計画を発表したあと、市民による保全活動が始まり藤前干潟保全の世論が高まった結果、名古屋市が計画を断念したという経緯をもつたいへん貴重な場所です。今年のCOP10においても生物多様性保全の観点から、この藤前干潟は話題となりました。干潟の環境保全や情報発信の中心施設である「稲永ビジターセンター」でDVDによる解説を受けた後、自由散策を行います。真夏の時期なので、渡り鳥の観察には適していませんが、ミサゴやカワウ、カルガモなどが観察できることと思います。

名古屋港水族館は、北館と南館に分かれ、北館では「35億年はるかなる旅 ～ふたたび海に戻った動物たち」と題した鯨類の展示、そして3000人が収容できるスタンドをもつメインプールでは、のびのびと泳ぐイルカたちの自然そのもののダイナミックな動きや、いきいきとしたパフォーマンスを楽しむことができます。南館には、日本の海から深海ギャラリー、赤道の海、オーストラリアの水辺、南極の海といった5つの水域があり、熱帯魚の泳ぐ水中トンネルや人工雪の降るペンギン水槽などが人気です。また、名古屋港水族館は1995年、日本で初めて屋内の人工産卵場に産卵されたアカウミガメの人工ふ化に成功しています。今回は、そのカメ類研究繁殖施設も見学いたします。



注意事項

- ◎昼食は含まれておりません。(別途ご用意下さるか参加申込時に注文して下さい)
- ◎暑さ対策と虫よけスプレーをご用意ください。(藤前干潟で散策する場合必須です)
- ◎申し込み前に、<http://www.aichi-seibutsu.com/jabe66/kenshyukouza.htm>で変更点や注意事項などを確認して下さい。